

# 学校給食、市内産活用へ大きな一歩

川崎市議会議員 矢沢たかお

1期目、2度目の年の始まりです。今年も皆様の声に耳を傾け、市政に反映させていきたいと思えます。今回は昨年12月の定例会の報告です。一般質問に立ち

①学校給食における地産地消の取組について②生産地の指定に関する指定面積要件緩和等について③ごみ収集車の事故防止対策について④鷺沼駅再編整備とバス交通整備について一市に質しましたが、今回はその中の①についてご報告した(表参照)。

しかし、川崎市内の小学校給食統一献立の産地ごとの食材使用量(2015年度)をみると市内産の購入数量(額)は0kgで、県内産では16万kg(3510万円)、県外産の118万kg(2億9560万円)と大きな差があることがわかりました(表参照)。

これは教育委員会に調査してもらった結果ですが、今まで教委では、市内産の使用状況を統計として取っていないこともわかりました。

学校給食への食材提供の取組は、農の振興計画「かわさき農の新生プラン」から記載があり、10年以上前から市全体で進めてきたという点

を含め、農の振興計画を策定し、農業施策を司る経済労働局と学校給食を統括する教育委員会側では意識に差があったことが改めてわかりました。

今までは、市内産の活用が進まなかった理由を質すと、市は「安定供給の確保、生産者から学校までの配送手段の確立に課題があったため」と答弁。現在、JA七

レサ川崎と課題解決に向けて協議を進めているというところでした。また「市内産農産物の供給は、地産地消推進に加え、子どもたちが地元農産物を知り、都市農業を学ぶ食農教育にも大きな効果があるため、今後関係機関と連携し取組んでいく」と前向きな答弁をもらいました。

川崎で市内産は難しいのでは、という声も聞きますが、農業実態調査等に基づ

く市内年間収穫量は本市学校給食が年間購入する量以上に生産している品目も多々あり、採用していてもおかしくない状態です。

中学校完全給食が今年から始まり、更に3万3千食分の食材需要が生まれま

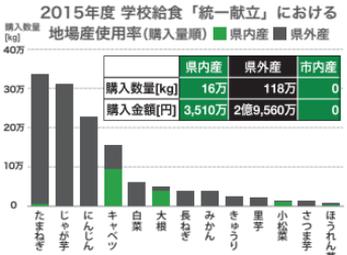
す。この機会も踏まえて、今までなかった学校給食への市内農産物の使用に関する目標を掲げるよう求めた

ところ、市から現在策定作業中の第4期川崎市食育推進計画に「市内農産物を中学校給食の統一献立で活用する」等、記載するよう調整すると答弁を頂きました。また課題も多く、生産者の皆様にご協力頂かなくては決してできない取組ですが、都市農業振興の側面からも非常に意義がある取組です。初の記載になるので大きな一歩を踏み出せた

と考えております。



**矢沢たかお**  
●昭和60年8月28日 ●川崎市宮前区初山生まれ(31歳)  
2015年4月初当選  
川崎市立菅生小学校卒業 / 川崎市立菅生中学校卒業  
/ 法政大学第二高等学校卒業 / 法政大学情報科学部  
コンピュータ科卒業 / 伊藤忠テクノソリューションズ㈱  
議会報告 市政情報 **は 矢沢たかお 検索**



たまたまの  
じゅんが手  
キャベツ  
白菜  
大根  
長かん  
みかん  
きゅうり  
里芋  
小松菜  
さつまいも  
ほうれん草